

資料1

第2回 草津市健幸都市づくり推進委員会意見について

番号	委員質疑・意見内容	
総論		
1	総論	○基本計画骨子(案)の「目指す姿」に「住む人も、訪れる人も」とあるが、同等の扱いに違和感がある。
2		○まちも人もどんどん変わっていく中で、既存の取組が今のままでよいのかと疑問を感じている。健康づくりは市民全員で取り組んでいかなければならないことであり、全員参加できる方法や実現するための課題について考えてみるべきである。
3		○計画の中で優先順位を決め、同時進行で全て始めるのではなく、何から始めればスムーズに進むのか、コストを抑えられるのかなどを考えてはどうか。
4		○市役所の各委員会の取組が、市民に伝わっていない。健幸都市に向けた取組について、市役所から市民へアナウンスする場があってもよいのではないか。
5	宣言	○宣言の案内を通知した約300社の選定基準は何か。 ○賛同を得られなかった事業所については、理由を考えてさらに参加事業所を増やしてほしい。
6		○企業の健幸宣言の具体的な内容を把握してほしい。 ○宣言をした企業に対しては、インセンティブを与えるなどして盛り上げてほしい。

番号		委員質疑・意見内容
まちの健幸づくり		
7	まちなみ	○「まちなみ」とあるが「まちづくり」ではいけないのか。実際に実行されるのは「まちなみづくり」だとしても、最初から矮小化することはないのではないか。
8	バリアフリー	○「バリアフリーに配慮した歩道等の整備」について、従来のバリアフリー法では交通施設だけだったが、現在のバリアフリー新法では、建物のバリアフリーなど全体のバリアフリーになった。歩道に限定せず「バリアフリーに考慮した交通網の整備」など、もっと積極的に取り入れていくべきではないか。
9		○バリアフリーとは、歩道に限定した問題ではなく、障害者分野ではすべてのバリアをなくす地域作りを進めようというものである。「まちの健幸づくり」の「バリアフリーに配慮した歩道等の整備」は、そのような意味合いに変えていただきたい。
10	拠点	○草津川跡地のように出向かないと運動できないものではなく、かつて学校のグラウンドが担っていたような、気軽に身体を動かせる身近な場所があればよい。 ○地域の中の小集団でコミュニティを作っておけば、地域の避難場所や避難経路などの情報の共有もできる。建物をつくることありきではなく、そういうところから始めていけばよいのではないか。
11	交流機会	○「交流機会や健康拠点の充実」では、草津駅周辺だけでなく、南草津駅周辺も考えた方がよいのではないか。
12		○「交流機会の充実」について、市民センターなど地域にある施設で、まちづくり協議会を中心にイベントを実施することを入れていくべきではないか。歩いて行ける範囲でイベントを行い、近所で互いをケアしていく体制づくり、元気な方のボランティアによる生きがいづくりを推進しつつ、まちの健康づくりを推進していく流れができるとよい。総合的に、交流の機会やイベントすべてに「地域に根付いた」という一言を入れるとよい。
13	ネットワーク	○駅周辺への交通ネットワークの整備の話があったが、駅周辺の市民が郊外に出掛けやすくなるなど、いろいろなニーズにあわせた交通体系も必要ではないか。
14		○交通機関について、草津市には「まめバス」というコミュニティバスがあり、病気になる前の段階、例えば、ボランティアの方の移動手段として利用すればよい。コミュニティバスは経費が掛かるが、健康づくりという面からも、市の財政への貢献の面からも利用を呼びかければよいと思う。
15	たばこ	○公共施設の分煙対策とあるが、国の方針では、少なくとも官公庁や医療施設では全面禁煙が望ましいので、禁煙対策とすべき。
16		○役所関係や不特定多数の人が出入りする公共空間は原則禁煙であり、また、不十分な分煙により受動喫煙させられることも多いため「禁煙対策」にした方がよい。

番号		委員質疑・意見内容
ひとの健幸づくり		
17	少年期	○少年期の健康づくりは重要で、小さい頃に得た習慣、特に「食べる」「運動する」は後々まで影響するので、総合教育などの学校教育で健康に触れる機会を増やしてはどうか。
18		○「少年期の健康づくり」では、具体的に政策の方向性が書かれているが、運動面がもう少し具体的にならないか。
19		○「少年期の健康づくり」では、学校も健康づくりの場となるが、健康福祉部門と教育部門との連携は難しく、例えばフッ素洗口などにもこの課題があるのではないかと。計画では、教育委員会を含めて連携を進めていかなければならない。
20	青年期	○企業に関しては、各社での取組は難しいので、交流の機会の場があると互いに学び合ってより良くなるのではないかと。
21	高年期	○「高年期の健康づくり」に「サービス付き高齢者向け住宅」があるが、その意図は何か。独居老人対策なのか。
22		○高齢者の中には、ボランティアをする能力はあっても、移動する手段がなく引退されるケースがある。タクシーを社会参加や遊びで利用することに抵抗があるようで、社会参加の機会を失い、生活能力まで落としてしまうケースが多い。タクシー利用について、割引のような金銭的な補助ではなくても、心理的抵抗を少なくして使いやすくするような仕組みを作り、要介護の進行にブレーキをかけることができないか。
23		○要介護者について、生活障害があることと、何もかも人に委ねることは決してイコールではないが、要介護者は人に委ねがちになっている。高齢者自身ももっと積極的に情報を集められるような仕組みや働きかけがあるとよい。
24	年齢区分	○年齢区分はどのように分けているのか。高校生が青年期に属するならば、飲酒について記載しているのがおかしい。高年期は、退職と記載しているが60歳以上か。
25	地域	○「地域の主体的な健康づくりの推進」は身体の健康が中心になっているが、心の健康、幸福も考えていただきたい。「地域の特性に応じた健康づくり」を「地域の特性に応じた健康と幸福づくり」に変えてほしい。
26		○先日のシンポジウムで福井委員の話聞き、玉川学区の取組が他の学区に広がれば、草津市の健幸都市を大きく推進できると感じた。
27		○自治区の「野路わくわくサロン」では、ボランティアは全員無償。参加者には1人200円いただくが、物を買って参加者に渡している。講師代は社協に出してもらおうが、野路の講師は無料。地域の中でそういう風土を作っていくことが重要であり、どんどん輪が広がっていった。これは新しいことではなく「元に戻った」と考えている。

番号		委員質疑・意見内容
しごとの健幸づくり		
28	産学連携	○大学や小売店などには、従業員の他に学生や利用客も多いので、従業員以外への働きかけを考えてもよいのではないかと。
29	ヘルスケアビジネス	○ビワイチという、琵琶湖を自転車で一周するサイクリングがあるが、草津川跡地に楽しいスポットやお土産を買える場をつくり、寄ってもらえるルートを作ってはどうか。草津川跡地に自転車を練習できる場を作り、ビワイチにもつなげれば、草津市に訪れる人が増えるのではないかと。
30	文章表現	○「運動スポーツや食農歴史等」という言葉は、運動とスポーツを違う意味として使っているのか。食農歴史は一つの単語なのか。「食農」という言葉が既に存在しているので、意味が分かりにくい。
31		○「ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援」の2つ目の文の構成が分かりにくく、頭に残らない。
32	草津ブランド	○市役所の食堂が閉鎖されている。草津ブランドを盛り上げたいならば、市民が草津ブランドを使った料理を食べられるような場所に利用するなど、市民にPRできる場を利用してはどうか。